公益財団法人
京都府国際センター
Kyoto Prefectural International Center

NEWS

Vol.93
2021年 春号

<特集> 京都府内の多文化共生に向けた取り組み

2020年12月末現在、京都府には61,139人の外国人住民の方々が住んでいます（京都府国際課調べ）。
増加を続ける外国人住民の方々との共生に向け、府内では様々な地域づくりの取り組みが行われています。
今号では、府内で活動する市町村国際交流協会の中から、3つの団体の新たな取り組みの様子をご紹介します。

ガレリアかめおかに、多文化共生センターがオープンしました!

亀岡市は、2020年度（令和2年度）の施政方針として、環境先進都市と多文化共生のまち亀岡を掲げ、11月にかめおか多文化共生センターを設置しました。多言語での相談窓口や、言語サポーターの登録と紹介のほか、様々な情報提供を行っています。運営は、亀岡国際交流協会が亀岡市から委託を受けて実施しています。
窓口の相談員のほかに、ボランティアによる地域の日本語教室や、外国ルーツの親子の学習サポートを行う「ひまわり教室」とも協力し、様々な人が共生するために一緒に考えていく拠点になるよう活動しています。
まだ認知度は低く、実績は少ないのですが、地道に活動を続けています。地域のゴミ出しルールの説明、亀岡市独自のクーポン券の紹介のほか、地域の「リユースの会」の協力で、冬物の衣類を無償で提供したところ、東南アジアの技能実習生らに喜ばれました。
このように、まずは気軽に話せる相談窓口を目指して、皆さんに信頼していただけるよう活動を続けていきたいと思います。

（亀岡国際交流協会 事務局長　井尻 浩嗣）

かめおか多文化共生センター
Kameoka Foreign Resident Support

通訳を通じて14ヶ国語に対応します。
■受付時間: 毎日10:00～16:00
（第4木曜日と12/29～1/3は休所日）
■住所: 〒621-0806 亀岡市余部町宝久保1-1
ガレリアかめおか3階
■電話: 0771-56-8160　■FAX: 0771-56-8165
■E-mail: kameokatabunka@gmail.com
■URL: https://kameokatabunka.studio.site/

目次

■<特集> 京都府内の多文化共生に向けた取り組み ……1～2
■事業報告 ……3
■京都府国際センター国際交流員からの報告 ……4
■京都府国際センターからのお知らせ ……4

京丹波町と災害時外国人支援のための協定を締結しました

昨年 11 月4日、京丹波町と本町国際交流協会の間で「京丹波町と本町国際交流協会の連携に関する協定書」が締結されました。
当協会北村会長の挨拶では「この協定は、町内在住・在勤外国人に対する災害時の支援を町と当協会が円滑に進められるようにするもので、町内 180 名を超える外国人の安心・安全を確保するための第一歩です。」と趣旨を確認した上で、「町内外国人の安心・安全は地域住民との日頃の交流による相互理解無しではありえない。」と決意を述べました。
町行政だけでなく、区長や民生委員、消防や警察、外国人を雇用する町内企業などの組織と連携しながら、「(外国人が) 自分の住んでいる地域にどのような危険があり、災害時にはどのような行動を取ったら良いかどの程度理解できているのだろうか。」「あまり理解できていないならそれを解消するためには、何が必要なのだろうか。」などを検討し、災害時だけではなく日常の中で防災に繋がる取り組みを推進していきます。

協定を締結した太田 昇町長(左)と北村 辰浩会長(右)

本町在住･在勤の外国籍の方、日本語力が十分でない方も、みんな同じ本町にとって大切な命です。
行政と連携し、本町に関わる全ての外国人の安全を守るお手伝いをさせて頂きます。

(京丹波町国際交流協会 副会長　北尾 潤)

せいかグローバルネット
多文化子育てひろば「いちご一会(いちえ)」、外国人相談窓口オープン!

精華町との共催事業として、多文化子育てひろば「いちご一会」を始めて5年が経ちました。その間、交流イベントを通して外国人や日本人の家族がつながる場を作るだけでなく、参加者の困りごとを把握し、サポートできればと活動を進めてきました。
この1年、コロナ禍のため「いちご一会」はオンラインで開催してきました。人と気軽に会えない状況が続く中、スタッフに個人的に寄せられる相談が増えています。
そこで、困りごとを気軽に相談できる場を作りたいという思いから、いちご一会スタッフ・参加者有志で、主に京都府南部・奈良県北部(けいはんな)在住の外国人の方を対象に、相談窓口を立ち上げました。
匿名で参加できる LINE OpenChat にて、参加者同士が気軽に情報交換するほか、日本語・英語・中国語での相談にも対応します。外国人の皆さん、外国人住民をサポートしたい日本人の皆さん、ぜひご参加ください!
また、いちご一会のメール・Facebook・Instagram で個別の相談も受け付けます。
近くに住む外国人の皆さんと一緒に楽しく暮らせる地域づくりの一助となればと願っています。

「いちご一会」の活動の様子

多文化子育てひろば(たぶんかこそだ)いちご(いちえ)一会
Multicultural Playgroup 多元文化親子小組

※詳しくはこちら
https://seikaglobalnet.wixsite.com/japanese/ichigoichie

(せいかグローバルネット「いちご一会」担当
須藤 和恵)

事業報告

京都府地域日本語教育シンポジウムを開催（2020年12月13日(日)）

2019年6月に国と自治体に対し外国人住民等への日本語教育を実施する責務を定めた「日本語教育の推進に関する法律」が公布・施行され、京都府においても昨年度「地域における日本語教育推進プラン」を策定し、今年度から市町村と連携して積極的に日本語教育施策を展開しています。
その一環として、日本語教育の意義について府民の方々の理解を深め、地域日本語教育の体制づくりを考える機会とするため、京都府地域日本語教育シンポジウムをオンラインで開催しました。
京都教育大学教授の浜田麻里氏のコーディネートのもと、NPO 法人日本語教育研究所理事長で元文化審議会会長の西原鈴子氏から、地域社会活性化の観点から多文化共生と日本語教育の必要性についての基調講演をいただき、文化庁および京都府国際課からそれぞれ国や京都府における日本語教育推進のための取組紹介がありました。
また、文化庁の日本語教室空白地域解消推進事業を活用して教室を立ち上げた舞鶴国際交流協会から地域日本語教室の活動について発表いただいた後、当センターのこれまでの日本語学習支援事業について紹介しました。

日本語支援ボランティア養成講座を開催

府内における日本語学習支援人材の養成・研修は、日本語教室の立ち上げを目指してボランティア養成講座を実施した宮津市を皮切りに、京丹後市、福知山市、綾部市、京丹波町、南丹市、亀岡市、久御山町、京田辺市の9地域で開催しました。
外国人住民の増加に伴い、ますますその必要性が増している多文化共生社会の形成に向けて極めて重要となる日本語教育を推進するための取り組みを当センターにおいても京都府とともにより一層進めていきます。

日本語支援ボランティア養成講座（宮津市）の様子

外国人支援者向け研修「災害時外国人サポーター研修」

当センターでは、災害時に主に通訳や翻訳で外国人支援にあたっていただく、「災害時外国人サポーター」を随時募集しています。昨年度に引き続き、今年度も多くの方にサポーターの活動を知ってもらうため、研修を実施しました。9月に開催した初回の研修では、JICA関西にご協力いただき、近年増加しているベトナム人の文化等について、また、外国人が考える防災システムの在り方について、それぞれ JICA 関西職員及びパキスタンから来られた研修員にお話しいただき、参加者にとって興味深いトピックの提供に繋がりました。
また、今年度の研修は全て会場・オンラインを併せたハイブリッド型で実施し、コロナ禍におけるイベント開催の目処を立てることにも一定の成果を上げました。
当センターでは外国人支援者研修の他、複数の外国人住民向け防災研修も実施しています。今後もその時々の時勢に応じた災害時支援の在り方について模索しつつ、災害に対しての心構え、支援体制の構築、向上に努めていきたいと考えています。

外国につながりをもつ子どもへのオンラインによる日本語指導

今年度から子どもへのオンラインによる日本語指導事業を始めました。京都府の「日本語指導が必要な児童生徒」のうち、4人に1人（100人以上）が日本語指導を受けることができていない状態にありますが、理由の一つとして日本語指導者の不足が挙げられます。
オンラインによる指導は、全国から指導者を探すことができ、指導者の確保がより容易になりました。対面の場合は、片道2時間近くかけて指導者が学校に通うということもありましたが、オンラインにすることで、指導者の移動にかかる負担も軽減できました。
ただ、画面上のやりとりは子どもの手元が見えず、その場の雰囲気も把握できませんので対面とは違う苦労もあります。子どもの特性に加え、オンラインの特徴も踏まえながら指導内容を考えなければならないため、まだまだ試行錯誤は続きますが、無支援にある子どもを一人でも減らすため、インターネットを使った取り組みをより発展させていきたいと思います。

京都府国際センター国際交流員からの報告

「世界のバレンタインデー」交流イベントを開催　サンドラ・アラジ

2021年2月20日(土)、コロナ禍でもおうちで楽しんでいただける国際理解講座「世界のバレンタインデー　～伝えるLOVEのかたち～」をオンラインで開催しました。フランス出身の私と、カナダ出身のサミュエル・ジードさん(亀岡市国際交流員)が司会進行を務め、京田辺市のALTでアメリカ出身のジャリカさんがゲストスピーカーとして参加し、アメリカのバレンタインデーの過ごし方や、バレンタインデーの歴史などを紹介してくれました。その後、様々な国のバレンタインデー事情について話し、恋愛の心理ゲームをしたり、参加者の皆さんのバレンタインのエピソードなどを聞いたりして交流しました。

日本ではバレンタインデーは「告白する日」となっていて、ホワイトデーなど独特な習慣があります。フランスやカナダ等では、「恋人の日」になっています。アメリカやカナダなどでは、バレンタインデーをよくお祝いする一方、「恋愛の国」と呼ばれているフランスでは、バレンタインデーをあまりお祝いしないことに、参加者の皆さんは驚いた様子でした。

参加者は他の国のバレンタインデーについて楽しく学ぶ場となりました。

京都府国際センターからのお知らせ

●外国人住民のための日本語教室（5月ー7月）

①基礎クラス　2021年5月13日(木)～7月19日(月)
②会話クラス　2021年5月15日(土)～7月17日(土)

- 時　間: 10:30～12:45
- 受講料: ①6,000円／20回（月・木曜）
  ②4,000円／10回（土曜）

※オンライン(ZOOM)にて実施

詳細➡https://www.kpic.or.jp/nihongo/kyoshitsu.html

●センター内スペースの利用対象範囲が広がりました!

センター内スペースは、地域の国際化に資する活動のほか、当センターが適当と認める目的のためにも広くご利用いただけます。

【利用資格】

- 当センターの賛助会員である団体または個人
- 京都府内で国際活動を行う団体または個人
- その他センターが適当と認める団体または個人

利用方法についてはこちらをご覧ください。
https://www.kpic.or.jp/about/info/riyoannai.html

～賛助会員を募集しています～

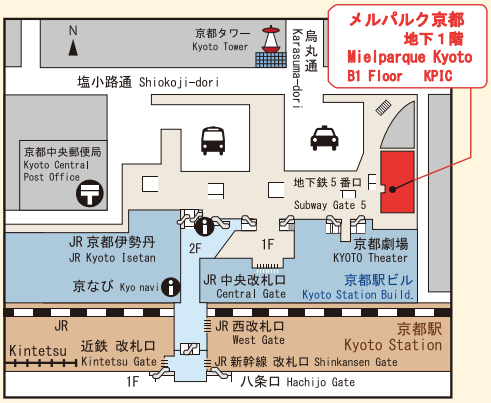
当センターが実施する様々な地域国際化事業や団体運営の財源に充てるため、趣旨にご賛同いただける皆さまを対象に賛助会員を募集しています。

【会　　費】個人会員／1口年額　3,000円（1口以上）
　　団体会員／1口年額 10,000円（1口以上）
【入会方法】・受付窓口で直接お申し込み
　　・電話、郵便、FAXで入会申込書をご請求の上、お申し込み
【特　　典】・当センター内スペース（有料）を会員料金でご利用いただけます。（団体会員）
　　・当センター各種講座等に優先してご参加いただけます。
　　・他団体との提携による特典をご用意しています。

パスポート写真撮影のご案内

収益事業として、パスポート用の写真撮影を行っています。

【場　　所】京都駅ビル8階
　　（京都府旅券事務所の隣に併設）
【営業時間】月曜日～金曜日　9:00～16:30
　　（旅券申請受付時間と同じです）
【撮影料金(税込)】
　　2枚 1,320円／4枚 1,980円
【お問い合わせ】
　　TEL 075-342-5002



公益財団法人京都府国際センター

〒600-8216 京都市下京区東塩小路町676-13 メルパルク京都B1F（JR京都駅前 北口東側（京都劇場側））

Tel：075-342-5000

Fax：075-342-5050　E-mail: main@kpic.or.jp
https://www.kpic.or.jp/
facebook https://www.facebook.com/kpic.kyoto

開館時間／午前10時～午後6時
休館日／毎月第2・第4火曜日、祝日、年末年始（12/29 ～ 1/3）

公益財団法人京都府国際センター NEWS　Spring 2021 春号 第93号
編集・発行／公益財団法人 京都府国際センター　Kyoto Prefectural International Center

PRINTED WITH SOY INK